

# E の探偵後書き

五十歩百歩

2023 年 2 月 25 日

どうも五十歩百歩です。うおお春休みです。全てから解放されてアザラシはウッキウキです。卓の予定もいっぱいあって楽しい春休みになりそうです。来年はまた研究漬けですけど...(一応今年も)。

そして長編がようやく完結いたしました。ようやく解放されました。ずっと早く続き出したいと思いながら 1 年とちょっとモヤモヤしてました。構想自体は幸福の D 書いた時点でほぼほぼできていたの、マジで多忙で書けなかっただけなので、本当に本当に…。それもこれも全部おしまい！全部吐き出しました！ここまでお付き合いいただき本当にありがとうございました。

全部終わったと言ってもね、恒例の後書きが残っております。勿論後書き部分は蛇足で脊髓垂れ流しとなりますが、よければ見て行ってください。

## 1 天星揚羽が探偵になるまで

この SS は謎解き部分と小説部分に分かれているので、解説も分けて書きます。が、そのまえにタイトルネタから。E の探偵の E は永遠だったり eternal だったり、ずっと探偵続けるよって意味です。あとエピローグの E でもあります。pdf タイトルの「Emancipate from Engaging Embrace」は「魅力的な抱擁から解放される」みたいな意味です。つまり彩愛さんからの解放です。リドルゲーム解説の「Explanation of riddle」はまんまです。「Engagement with Employee」は「従者との約束」。彩愛さんとの約束です。交わした約束はきっと守ってくれると思います。よほどのことが起きない限り。

俺にとってのヒーローは翔太にとって揚羽が、揚羽にとって翔太がヒーローのような存在であるという意味です。ちょっと互いに依存しあってる感ある。大切な人がいない同士仲良しってことなのかな。

では全体の構想から。構想時点で翔太と揚羽がヒトリソウサをそれぞれ行うことは決めていました。「切り札の A」で実際に謎解きを作れば楽しいのでは？と思ったので、一旦ココフォリアを用いて作りました。その時点でココフォリアでやれるネタはほぼ全部やったし、これ以上のことをやる、かつ自分が作れる範囲を考えてリドルゲームという形に収まりました。あれざっくり言えばブログみたいなもので、ネットの海に自分が作った記事をあげるのはほぼ初めてなのでちょっと恥ずかしいです。少ししたら消すかもしれません。

時系列は我が儘な G で探偵が病院を抜け出した少し後です。二人で病院に運ばれた後が「X のプレ

ゼント」になります。今までのを振り返って列挙してみますか。作品内の時系列順になっています。

「一人乗りの S」(同居人セッション直後)

「N の囁き」

「忘るまじき F」(探偵 24 歳、揚羽 19 歳、3 月)

「探偵のメモ」(虚無部屋のメモ、～6 月 14 日)

「M に取り消し線」

「望まれた U」(10 月くらい)

「L の使い道」(11/23、勤労感謝の日)

「幸福の D」(探偵 25 歳、11/30)

「熱源は Q」

「切り札の A」

「G な我が儘」

「C に魔法を」(過去回想、G な我が儘食事シーン)

「E の探偵」(12 月頭)

「X のプレゼント」(12/25)

「人生の彩り」(揚羽 20 歳、6 月)

「半ばの人生だった貴方へ」(探偵 26 歳、11/30)

になります。長いなあ。こんなに作ってたんだ。エイプリルフール外伝みたいに省いたものもあるのでもうちょっと書いてるんですけど、濃密な 1 年だったなあ。雑談チャンネルを荒らしに荒らしまくった 1 年でもありますね。本当に申し訳ない。そろそろ本編解説しましょう。

プロローグに出てくる日記帳は「」なんてねに出てくる願いを叶える日記帳です。最後のページ(消えた揚羽の姉が書いたもの)は破れていて、日記帳のルールをニャルが追記したものになります。日記帳を再び手にした影響か、一時的に記憶が戻っていて、姉のことを凜姉って呼んでたりします。日記帳ポイ捨てしたからまた記憶消えちゃうんですけどね。

半翔太を見つけるため、揚羽は今日一日探偵になることを決めます。探偵に命を貰ったから今度は自分が探偵を助ける番って感じ。行き過ぎて最後文字通り血を流すんですけど。揚羽は精神的には未熟で探偵の心構えもよく分かっていないんですが、探偵としての才能は半翔太以上にあります。足りない勇気を帽子とレイピアから借りる感じ。揚羽がヒトリソウサの宣言をするシーン好きなんですよ。前作主人公の力を借りて解決に挑む感じ。分かって？

机の引き出しに探偵と彩愛さんの写真。多分じっちゃんが撮影してる。何周年かどっかの記念で撮ったんだろうけどこれ以外に 2 ショットが存在すると言われると不明。揚羽が見覚えあるのはじっちゃん経由で探偵のことを知ったから。

本棚には隠し本棚があり、スライドすると見つかる感じ。スライドできる本棚ってあるじゃん？探偵はいつか揚羽に自分の過去を伝える必要があると考えていて、謎解きの本を残しています。『ニューイングランドの楽園における魔術的驚異』は見せるつもりはなかったんだけど燃やすタイミングなくて見つかったね…。長編後に処分はしてあります。なお中身はもう全部覚えちゃった模様。

謎解きの本は所謂伏線になっていて、正当な権利を変換して右にすること、問いと答えが Q と A に変換できること、合言葉で愛を変換して数字とアルファベットにすることの前振りです。入試問題とかの誘導って言った方が近いかも。謎解きやシナリオ作りには便利な手法だと思います。この誘導頭いいなあって思いながら作ってた。

翔太の部屋ですが、本当は見つかるものをもっと増やそうと思ったんだけど、面倒なので必要最低限にしました。ピッキング道具を使ってやりたかったんです。ガラクタ箱にはランプとそれを隠すために複数のヒーローのおもちゃがあります。エピローグでヒーローって言葉が出る伏線にもなったり。不燃物ゴミはベランダから侵入できることの示唆です。ちゃんとここでベランダから侵入させるために幸福の D で鉢植えが割れた描写を書いたんですね。ちゃん構成は練ってあったんですよ。ちょっと作るのが遅かっただけで...

彩愛さんの部屋はシンプルでもものも置いていないので、揚羽は合言葉と箱以外目についていません。けど引き出しとか漁ったら今までの探偵のプレゼントが見つかったかもしれない。箱の中の愛言葉は L の使い道で書いてたやつです。ちゃんと考えてたんですよ。いつか揚羽ちゃんを書いた愛言葉も見せることがあるかもしれない。ないかも。

ヒントを教えていたのは揚羽ちゃんの姉の凜華ちゃんです。次元の外からテレパシー送ってるイメージ。ソース内の怪しい文章はニャル様です。普通人が見ることができない場所にいるのが一番イメージにあってるので、ソースという名の深淵を覗く輩を覗き返してもらいました。

リドルゲームの話はこれくらいかな？それではエピローグの pdf について。

## 2 半翔太が探偵を続けるまで

序盤で探偵は五感をほぼ失った状態まで疲労しています。彩愛さんの声も届かなくなってしまうくらいに。揚羽が訪れてからは多少マシになっています。

そして揚羽の説教。G な我が儘で叱られるだろうなあと言ってましたが本当に叱られました。ずっと一緒だと思っていた人が急にいなくなったのですから。姉を記憶ごと失った今の揚羽にとって一番大事な人は半翔太です。それもあってどうにか翔太を探偵に戻そうと、自分のそばに居させようとします。自分の犠牲を顧みずに。どちらかといえば子どもの我が儘に近いです。帽子を被っただけの青年ってのも、探偵としての発言、依頼人ポジションの翔太を一番に考えた発言じゃなくて、自分の想いを唯々突き付けたって感じです。

それでも強欲な罪人は探偵に戻れないと考える翔太に対して、間違ったらやり直せばいいと揚羽は言い返します。罪を償わせやり直す機会を与えることはずっと半翔太がしてきたことです。犯人を殺さずにきちんと逮捕させるのもそのため。なのに自分にはそれを適応することができないんですよ。視

野が狭い。自分の事になると途端に周りが見えなくなるのはよくないですね。揚羽ちゃんもだよ？

そして揚羽が翔太に問いかけます。「お前の罪を数えろ」と。「人を愛することが罪だとでも」という言葉は元ネタの仮面ライダー W にも出てきています。その五十歩百歩なりの、揚羽なりのアンサーが「間違っているのは愛し方である」になります。

揚羽は翔太の愛し方が間違っていることを認めたうえで、彩愛さんに会う方法がそれしかないなら、自分が血を流すことを決断します。これがやりたかったんです。揚羽が犠牲になる以上、最初に定義した「他人の犠牲なしに、彩愛さんに会いたい」が満たされないので探偵は彩愛さんとの別れを決断します。本当はここで決断する予定だったんだけど、G な我が儘の RP 会でちょっと前倒しになりました。彩愛さんと紀凜さんの最高の RP のおかげだと思います。

最後は仲良く救急車に運ばれます。彩愛さんとの別れ際の会話だけではないですが、彩愛さんってどんなこと言うかなあって思いながら書いてます。皆さんの彩愛さん像に近ければいいんですけど。「帽子は男の目つきの冷たさと優しさを隠すものだ」は一人乗りの S から書いた探偵の帽子の話ですが、涙は隠すことはできないんですよね。雪のせいにするのが精一杯です。

一人乗りの S では罪を咎め、裁いてくれる人がいないから探偵を続けざるを得なかった。E の探偵では罪を数えてくれる人がいたから探偵を続けることができた。同じ探偵を続けるにしても、この差はとっても大きいんじゃないかなって思います。

以上後書きとなります。長編が終わって第一部完！ってところでしょうか。以降は気分や筆が乗ったら不定期で載せていこうと思います。多分長編は二度と書きません。こうなるので。約 1 年半ご付き合いいただきありがとうございました。半翔太と天星揚羽、彼らの物語はまだ終わりません。なんなら二人とも継続で連れてってるし。それでも一旦区切りということで。物語を紡いで行けたのは、ひとえに同卓の紀凜さんと KP のおゆきさんのおかげです。本当にありがとうございました。それではまたどこかで！